全さんま棒受網地域漁業復興プロジェクト（宮城地区部会・大型）

事業実施者：気仙沼漁業協同組合　　使用船舶名：第二十八安洋丸（199トン）

支援期間：平成28年8月20日～令和1年8月19日　　（さんま棒受網漁業）

（取組の内容）

● 省エネ・省コスト化：
同一船型船の建造による建造コストの削減並びに省エネ船型、大口径固定ピッチプロペラ、低燃費型機関及びLED漁灯の採用等による燃油使用量の削減を図る。

●漁船の安全性・労働環境の向上：
二重バラストタンクの設置等による船体復原性の改善、省力機器の導入等により、労働環境及び乗組員の労働意欲の向上を図る。

●漁獲物の付加価値向上・高度衛生化：
船上箱詰とブロック凍結品の生産及び高度衛生管理により、流通段階における付加価値向上及び衛生管理を図る。

新船導入

水揚げ

船上箱詰め、ブロック凍結品生産

（事業の成果）

●同一船型船の建造により、建造価格は大幅に削減（40,000千円以上）された。

●燃油使用量は、1年目412kℓ（従来比26.9%削減）と目標を達成できたが、2年目の漁期より漁場が沖合に形成され、1航海における移動距離の増加と、探索時間及び操業（網入れ）回数の増加などにより、2年目524kℓ（7.0%削減）、3年目634kℓ（12.5%増加）となった。

●二重バラストタンクの設置や機関場の低重心化により復原性が改善され、安全性の向上が図られた。また、省力機器の導入等により乗組員の軽労化が進捗した。

●水揚数量(3年平均)は1,531トンで、計画（2,720トン）の56.3%であったが、魚価が上昇したため水揚金額（同）は334.6百万円と、計画（346.3百万円）の96.6%となった。

●船上箱詰（3年平均）は、魚体サイズが小さくニーズと合致しなかったため実績150箱で計画（300箱）の50.0%となった。また、ブロック凍結品（3ヶ年平均）は、魚価が安く採算が合わなかったため、生産を控えた結果実績37箱で計画（400箱）の9.3%となった。

●海水滅菌装置を導入したことにより、さんまの鮮度保持が向上するとともに、新しい市場の整備により高度な衛生管理が確立され、安心安全で高品質な漁獲物の供給ができた。